

市長記者会見記録

日時：2019年1月15日（火）14時00分～14時34分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：「第11回川崎国際環境技術展」・「未来を創る川崎イノベーション展」の開催
とグリーンイノベーション関連事業の取組について（経済労働局、環境局）

【話題提供】新・川崎市動物愛護センター愛称「ANIMAMALL かわさき」
に決定しました！（健康福祉局）

<内容>

≪「第11回川崎国際環境技術展」・「未来を創る川崎イノベーション展」の開催
とグリーンイノベーション関連事業の取組について≫

【司会】 ただいまより市長記者会見を始めます。

初めに、福田市長より本日の議題であります「第11回川崎国際環境技術展」・「未来を創る川崎イノベーション展」の開催とグリーンイノベーション関連事業の取組について御説明をさせていただきます。それでは、市長、よろしく願いいたします。

【市長】 それでは、本日は2月に開催する「第11回川崎国際環境技術展」と「未来を創る川崎イノベーション展」、その関連事業について報告いたします。

お手元の資料1枚目を御覧ください。

まず、初めに2月7日、8日に開催いたします「第11回川崎国際環境技術展」及び「未来を創る川崎イノベーション展」についてでございます。

今回は、2、会場にございますとおり、会場をとどろきアリーナから昨年度オープンいたしましたカルッツかわさきに変更し、羽田空港からの近接性や臨海部における様々な取組等とも連携し開催をいたします。

また、これまで10回開催してきました環境技術展に加え、ウェルフェアやライフ等のイノベーションのほか、優れたものづくり技術を、市民をはじめ国内外に発信していく場として「未来を創る川崎イノベーション展」を同時開催いたします。

今回の出展状況につきましては、4の出展状況にございますとおり、両展合わせますと過去最大規模の181団体、270ブースの出展が予定されておりました、そのうち88団体は新規の出展者であり、市外・海外からも多くの出展がございます。

今回は、会場を変更しましたこともありまして、カルッツかわさき全館を最大限に活用し、記念企画や新規企画を多数用意いたしました。今回の企画としては、5、主

なポイントの（２）以降を御覧ください。

２月７日の初日には、目玉企画としてSDGsやイノベーションをテーマとしたシンポジウムを開催いたします。セッション１では「SDGsが生み出す新たなビジネス」をテーマに、SDGsへの企業の取組を企業の強みやイノベーションにつなげる方策等について最新事例を交え、御議論いただきます。

また、セッション２では、「常識を覆すベンチャー企業のイノベーション」をテーマに、ここ川崎からイノベーション生み出す３０年後の未来の姿などについてご議論いただきます。

次に、次ページの（３）を御覧いただきたいと思います。

環境技術展会場では、ドローンの操縦やバーチャルリアリティーなどの体験ができる「未来を創る実演・体験コーナー」を設置いたします。

また、初のコラボレーション企画として、低炭素杯を大ホールにて２月８日に開催いたします。

さらに、（５）でございますが、ビジネス層や一般の方など、どのような方がいらっしゃっても御満足いただける様々な企画を御用意しております。カルッツかわさき前の屋外会場では、オフグリッドタイニーハウスの展示やエコカー試乗会を実施いたします。また、臨海部の様々な先進的な取組を市民等に知っていただくため、殿町「キングスカイフロント」や水素関連企業などをめぐる「見学バスツアー」も実施いたします。

また、グローバルイノベーションセミナーとして、様々なイノベーション分野において第一線で活躍する講師によるセミナーを開催し、出展者・来場者のビジネスのさらなる展開に向けた最新情報や取組を提供いたします。

詳細につきましては、展示会のダイレクトメールを参考資料として添付しておりますので、後ほど御覧いただきたいと思います。

続きまして、関連事業について順に御説明いたしますので、お手元の関連資料を御覧いただきたいと思います。

関連資料の１ページにもございますように、低CO₂川崎ブランドの認定結果発表会を、技術展初日の２月７日にプレゼンステージで行います。今年度は９件の認定があり、大賞は、信号器材株式会社のLED内照式道路標識となりました。この製品の特徴は、標識の光源を従来の蛍光灯からLEDに変えることにより消費電力が減少し、二酸化炭素の排出量が削減されます。また、標識の明暗比が改善され、視認性が高まることで、交通事故の未然防止など都市全体の安全性の向上にもつながることが期待

できます。

そのほかの認定結果などは2ページを御覧いただきたいと思います。

次に、関連資料3ページでございます第15回川崎国際エコビジネスフォーラムの開催についてです。今回は、「都市と産業の共生に向けて～国際社会における環境とビジネスの共生に向けたグローバル都市の役割」をテーマに開催いたします。基調講演を国連環境計画国際環境技術センターのキース所長や国立環境研究所の渡辺理事長などに行っていただきます。

また、3つのセッションでは、オーストラリアやインドネシアなどの海外都市のほか、国内外の研究者や市内企業の方々に環境技術や環境課題への取組について御発表いただく予定です。

詳細につきましては、フォーラムのチラシを御覧ください。

以上、川崎国際環境技術展及び川崎イノベーション展において、こうした本市の特徴、強みを生かした様々な分野の取組を国内外に向けて発信し、市内産業のイノベーションや新たなビジネス創出につなげることにより、持続可能な「力強い産業都市づくり」を一層推進してまいります。

私からの説明は以上です。

【司会】 ただいまの議題に関する質疑応答に移らせていただきます。なお、市政一般の質疑につきましては、この後、話題提供について御説明した後、改めてお受けいたしますので、よろしくお願ひします。

それでは、進行につきましては幹事社様、よろしくお願ひいたします。

【幹事社】 それでは、よろしくお願ひします。

技術展の件でお伺ひします。言葉尻ではないんですが、この出展状況の181団体は、先ほど過去最大規模とおっしゃいましたけれども、過去最大、要は数字の上で1番なのか、ほぼ同数で1位ではないのか、この規模、過去最大の意味合いをいま一度確認させてください。

【市長】 最大ということによろしいでしょうか。

【国際経済推進室長】 そうですね。数自体も最大でございます。

【幹事社】 ありがとうございます。

市長に、このテクノロジーの祭典なんですけれども、この祭典にどんな期待を市長はなさって、この祭典の及ぼす影響など、どういう期待をお持ちでいらっしゃいますか。

【市長】 イノベーション展のほうでございますか。それとも技術展。

【幹事社】 エコとテクノロジーの祭典の全体。

【市長】 そういう意味では、今回、環境技術だけではない川崎の技術力を、しっかり総合力を見せていくという意味で、イノベーション展というのとも同時開催するというので、来ていただいた方がどなたでも、川崎の技術力はすごいなど、かつ、ビジネスマッチングにつながるような、ちょっと幅広な展開になりますので、昨年よりもかなり魅力度は上がっているのではないかなと思っていますので、昨年度よりも増したお客様の来場を期待しているところです。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。私からは以上です。

【幹事社】 川崎イノベーション展で市長が是非これを見たい、実際に体験してみたいことというのは、どういうところでしょうか。

【市長】 今も申しましたけども、実際に見るだけじゃなくて、皆さんが体験できる。ドローンの操縦だとか、バーチャルリアリティだとか最新の技術がいろいろ、新聞や、あるいは映像では皆さん見たことがあるけれども、実際に触って体験できる、最新技術を実際にやっていただくことができるというところに魅力があると思っています。私自身も大変興味ありますし、皆さんにもそれを体験していただきたいと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。各社、質問ございますか。ありませんか。

【司会】 よろしいですか。それでは、議題に関する質疑はこれにて終わらせていただきます。関係理事者の方は、これにて退席させていただきます。

《新・川崎市動物愛護センター愛称「^アニ^ママ^モル^ル かわさき」に決定しました！》

【司会】 続きまして、話題提供といたしまして、新・川崎市動物愛護センター愛称「^アニ^ママ^モル^ル かわさき」に決定しました！について、福田市長から御説明いたします。

市長、よろしく願いいたします。

【市長】 再編整備を進めてまいりました動物愛護センターですけれども、中原区上平間に移転し、2月12日にオープンいたします。この新しい動物愛護センターを広く市民の皆様にご存知いただき、親しみを込めて呼んでいただけるように愛称募集を行い、Web投票及び近隣小学校7校の協力による児童の投票を実施した結果、「動物を守ることに動物のための施設を組み合わせ考えた」という川崎区の小学5年生、橋本隆之介さんの作品である「^アニ^ママ^モル^ル」を選定し、愛称を

「^ア^ニ^マ^モ^ー^ル ANIMAMALL かわさき」と決定いたしました。

動物愛護センターの完成記念式典につきましては、2月3日日曜日、午前10時から実施いたします。式典では、愛称考案者の表彰を行うなど、内覧会も予定しております。

新しい動物愛護センターは2月12日から業務を開始いたしますが、日曜日を開館とするなど、より多くの市民の方に親しみを持って来館いただける「動物を通じて、誰もが集い、憩い、学べる交流施設」としてまいります。以上でございます。

【司会】 それでは、ただいま御説明いたしました話題提供の件と合わせまして、市政一般についての質疑に移らせていただきます。

進行につきましては、引き続き幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 まず、この動物愛護センターの件で教えてください。今回、橋本隆之介さんの応募名称だといただいています。ANIMAMALLと応募したのは、この橋本さん、唯一、ただお一人ということになるのでしょうか。

【市長】 事務方からでよろしいでしょうか。

【幹事社】 はい。

【動物愛護センター所長】 ^ア^ニ^マ^モ^ー^ル ANIMAMALLは、アルファベットでANIMAMALLというのが橋本隆之介さんだけだったんですけれども、同じ読みで、平仮名と片仮名を組み合わせたアニマモールをつくった方が1名と、あともう一人、同じ読みで、平仮名のみでつくった方がいらしたんで、意味が一番通じやすい、わかりやすいものとして、アルファベットでANIMAMALLを選ばせていただきました。

【幹事社】 ありがとうございます。事務方にお伺いすることになるんですが、もう1点、ローマ字というか、アルファベットでと。なぜローマ字、アルファベットにしたのか。ローマ字のほうがわかりにくいかもしれないと。

【動物愛護センター所長】 この橋本隆之介さんの^ア^ニ^マ^モ^ー^ル ANIMAMALLですけれども、動物を意味する「^ア^ニ^マ^ル ANIMAL」とショッピングモールとかの「^マ^ー^ル MALL」、これの造語なので、動物を通じた交流施設ということで、字面からイメージが浮かびやすいということで、こちらを選ばせていただきました。

【幹事社】 片仮名よりわかりやすいということですか。

【動物愛護センター所長】 そうですね。例えば「アニ」が片仮名で「もーる」が平仮名の作品があったんですけれども、「アニ」自体がアニマルを連想しづらかったので、アルファベットのほうを選ばせていただきました。

【幹事社】 どうもありがとうございました。私からは以上です。

【幹事社】 各社、質問ありますでしょうか。

【記者】 よろしくお願ひします。ANIMAMALLという名前なんですけれども、率直に、市長はこの名前、聞かれて、どのような感想を持たれたかというのを教えてもらっていいですか。

【市長】 候補が絞られて、Web投票になる前の、幾つか選ばれているのを見ましたけども、率直に、私もいいものを選んでいただいたなど。Web投票もそうですし、近隣の小学校7校で実施したので、子供たちも非常に、私が言うのはすごくせんえつですけれど、センスがいいなというのが率直な感想でした。

【記者】 そのセンスの良さというのは、そこにも書いてはありますが、アニマルと云った動物を守るとか、そういったいろんな言葉が含まれているというところにセンスのよさを感じたということですか。

【市長】 そうですね。

【記者】 ありがとうございます。すいません、あともう1点だけ。川崎市動物愛護センターでネーミングライツも合わせて募集されたと思うんですけども、そこに關して、ネーミングライツの募集の状況であったり、こうしたネーミングライツを行うということに当たって、市長がどのようにお思いになっているのかという、この2つを教えてもらってよろしいですか。

【市長】 部屋8室を募集して、そのうち3室についてネーミングライツをやりたいと言っていた企業の方がいらっしゃいます。未定の5室についても、今後さらに求めていくという形でやりたいと思いますが、非常に關心を持っていただいて、ネーミングライツに応募していただいた方に非常に感謝したいと思ひますし、それぞれ動物の愛護に非常に高い關心を持っていただいているところなので、ネーミングライツを知っていただくと同時に、今後も深く動物愛護センターの運営などにもいろんなアドバイスをいただきたい、ご協力いただきたいと思ひています。

【記者】 ありがとうございます。

【幹事社】 ほか、各社の皆さん、いかがでしょうか。

【記者】 以前もお聞きしたことがあるかもしれないんですけども、今回、新しく動物愛護センターができるということで、川崎市の動物愛護にかける思いというものを一つ、例えば川崎市から発信していくというような思いがあるとか、そういったところで、どういうふうに期待をしているとかというところを。

【市長】 先ほども申しましたけども、今回から日曜日が開館日になりますので、より幅広く市民の皆さんに気軽に立ち寄っていただける。それも、ご家族で来ていただ

けることを大変期待しております。動物の命の大切さを学ぶということもそうですし、また、触れ合いを通じて適正飼養の啓発にしっかりと努めていくとか、幅広い世代で、この施設を中心に触れ合って、学んでいただきたいと期待をしておりますので、ハードにしても、ソフトにしても、今回大きく整ったのではないかなと思っていますので、運営についてもしっかりやっていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

《待機児童対策について》

【幹事社】 ほかはいかがでしょうか。それでは、市政一般の件でお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。今日の午前中に、待機児童対策推進本部会議が開かれたと思いますが、今時点での今年の春に向けての待機児童の何か課題なり、もしくは確認事項、市長の指示などございましたら、教えてください。

【市長】 引き続き申請者数自体は伸びていますので、そういった意味では、これまでも発表していますけども、いわゆる枠的なところでは、今年も昨年を上回った新規の枠を整備しますので、ぜひ待機児童解消に向けて引き続き努力を行っていきなと思っていますが、申し上げたとおり、申請者数も増えていますし、かつ、拠点というか、区によっても、あるいは区の中でも待機児童が非常に厳しいエリアとそうでないエリアというのが、濃淡が出てきているところもありますので、そういったことを考慮しながら施設整備に取り掛かっているところです。今日も言ったんですが、これから保留通知が発送されますので、そこからのアフターフォローを丁寧に、丁寧に引き続きやっていくということをみんなで確認し合ったところです。

【幹事社】 直近の待機児童数ですと、昨年末に発表いただいた10月1日時点のものなのかなと認識しておりますけども、市長として、今、地域ごとの気になる変動点というんでしょうか、応募状況、申請状況で何か特異な地域事情など、何か、垣間見える場所や事案は。

【市長】 あまり昨年と変わっていないと思います。各区の状況も大体似たような傾向があるので、今年が突出して何か特徴的なものがあるかといったら、そうではないので。

《横浜市営地下鉄3号線の延伸について》

【幹事社】 わかりました。あと私からはもう1点。前回の定例会見でもお伺いしましたが、横浜市営地下鉄の延伸の件で、現時点で何か決定したもの、要は一緒にやる

のか、やらないのか、決められている状況にありますでしょうか。

【市長】 前回から特に変更はございません。

【幹事社】 可否の判断の後ろは、要はリミット、期限はいつまでと考えていらっしゃいますか。今年度中ですか。

【市長】 そうですね。横浜市長もおっしゃっておられるとおり、そうだと思います。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。

《厚生労働省による毎月勤労統計調査関連について》

【幹事社】 先週、厚生労働省の毎月勤労者発表で不正調査があつて、2,000万人に失業給付であるとか労災などの過少給付があつたと。この政府の基幹統計というのが56あるんですけれども、その中で1つ大きな不正がございました。川崎市も発表されております20政令市との比較とか、いろんな意味で、そういう統計数字というのは市政運営にわりと密着した関係にあると思うんですけども、まず、毎月勤労統計での不正についての市長の所感を教えていただきたいと思います。

【市長】 政府が発表する統計情報というのは、ある意味、全ての制度だとか施策を構築して上で最も基礎となる情報ですので、そこに不正があるということは、あつてはならないことですし、そういった意味では、国民の信頼を大きく損なうことになるのではないかと大変危惧しております。今回の一件が、本市にどう影響するのかという、まだ何も言えない部分はあるんですが、直接的には非常に限られてくるということでありまして、一般論としては、先ほど申し上げたとおり、基礎的なものに不正があるのは、あつてはならないことだと思っています。

【幹事社】 わかりました。あつてはならないことということでございますけれども、いわゆる政府、国の発表する基礎統計への不信感というのは、今後も、これを本当に使っていいのかみたいなことになりかねないんじゃないかということもあると思うんですけども、それについてはどうですか。

【市長】 今回の件は、考えてもみなかった部分ですので、どういうふうな経緯でそうなったのかや、今後の国の対応をこれから注視していきたいと思っていますけれども。

【幹事社】 今回の厚労省の毎月勤労統計の誤った手法というものを、大阪府とか神奈川県のようにもやるよという通達があつたんですけれども、そうすると、県内政令市のデータなども変えられた可能性があるんですけども、いわゆる今、組織的な隠蔽、組織的な不正調査というところに焦点が集まっています。これについては、

何か思うところはございますか。

【市長】 調査の結果を待ちたいと思います。ちなみに、本市にどういったところに影響があるのかだけは申し添えたいと思うんですが、本市で毎年公表している「市民経済計算」というものがありますが、それを算出する際に、東京都に係る毎月勤労統計調査結果を一部使用している項目があるということです。これが算出結果に影響が出る可能性が考えられるということが、本市に影響があるのかなと現在考えられるところでもあります。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。

【幹事社】 ほかはいかがでしょうか。

《新元号への対応について》

【記者】 すいません。新元号が4月1日に発表されるということが決まりましたけども、川崎市の公文書とかシステム上の改変というのは、1か月間で間に合うのかどうか。現状、どういう対応をとられて準備されているのかを教えてくださいと思います。

【市長】 今、総務企画局でどういう対応を行うのかということ、一連の対応を全部まとめて、各局に照会しながら、統一的なものやっつけていこうということで、作業をしているところでございますので、遺漏なきようにやっていきたいと思っています。

【記者】 わかりました。

【幹事社】 ほかはいかがでしょうか。

《合葬型墓所について》

【記者】 すいません、よろしいですか。以前もちょっと聞いて恐縮なんですけれども、川崎市で、合葬墓で無縁化対策を行うということがあると思うんです。改めてなんですけど、市がそういった無縁化対策として合葬墓を行う背景というもの、例えば若い人がいる一方で高齢者がどんどん多くなっていくというようなことも考えられると思うんですけれども、そういった背景というものをもう一度教えてもらってよろしいですか。

【市長】 そもそも、ちょっと何年かあれですけども、10年ぶりぐらいにお墓に関する市民意識のアンケート調査を行いまして、その際に、様々な墓地に対する考え方というのは、この10年間で大きく変わってきています。それに、今の高齢者の方々も、将来、無縁化するのではないかという懸念が大変増えていて、合葬墓的なものを

求める声は大変多くなってきているという傾向がございます。そういったものが背景にあるということです。非常に少子化が進んでおりますし、どうやって管理していくのかという不安のお声を、先んじてというわけではありませんけれども、しっかりとそのニーズをとらまえて、今回の整備に至っているということです。

【記者】 例えば福祉課で、無縁化、独居老人であったりとか、そういった方々に対してのアプローチもいろいろされていると思うんですけども、市長のもとにもそういったお話というのは結構聞こえてくる部分があったりするんですか。

【市長】 すごく一般的な話で恐縮ですが、これは市長のということではなくて、どこの場に行っても、まだまだ元気なアクティブシニアの皆さんのところに行って話をしても、お墓の話題というのは非常に多いです。お墓の話か病気の話かというぐらい、本当に一般的にお墓に対する、どうしたらいいんだろうという話題は常に上っていると思います。それはすごく肌身に感じますし、大きな話題だなと思っています。それを安価な形で、かつ、みんなに迷惑を掛けたくないという意識というのが非常に強いという傾向があって、そういうお声はあります。非常にお墓に対する考え方というのが、しっかりと敷地の中に大きな墓石を建ててというものを志向される方もいれば、一方で、合葬墓的なものが欲しいんだという方まで、非常に幅広いニーズがあると思っていまして、形態もいろいろ、民間でもいろんな形が出てきているということです。ですから、その中で、公共としてしっかりと市民のための墓地を確保していくというのは大切なことですので、そのニーズにしっかりと応えていくことだと思います。

【記者】 今おっしゃった部分とかぶるかもしれないんですけども、民間がそういった墓地を提供するという一方で、市が、行政が墓地を提供するという意義というのは、どういうところにあるかというのを改めて教えてもらっていいですか。

【市長】 自分が住んでいるところで、最後まで暮らして、最後、お墓の心配をしながら亡くなるということは、非常に行政の責任だと思います。民間でできていることもそうなのですが、安価な形で整備するというのは大事な行政の仕事の1つだなと思っています。本当にこれから多死社会というか、一気に需要は高まっていく中で、お墓を探せないとか、あるいはお墓が高すぎて取得できないというのは、現時点でも少しずつ顕在化していると思いますし、一方で、墓石は今持っているんだけど、完全に無縁化してしまって、なかなか管理ができないという状態に既になっているところもあります。市営墓地の中でも、そういう問題が顕在化していると。そこは適正な形で移して、またそこを再利用していくということも重要なことだと思いますので、

しっかりとその循環をつくっていくということは大事なかなと思います。

【記者】 ありがとうございます。

《成人の日を祝うつどいについて》

【幹事社】 ほかはいかがでしょうか。すいません、私、聞きそびれたことがあります。昨日の14日に行われた成人の日を祝うつどいの件でお伺いしたいんですが、私、臨場できなかったんですけれども、つどいの様子や、もしくは市長がその場で感じたこと、若者にどのようなメッセージを贈ったのか、申しわけありませんが、この場で教えていただけますでしょうか。

【市長】 はい。雰囲気とすれば、毎年思うことでありますけども、川崎の成人の皆さん、非常に大人だなというか、理路整然としていますし、式典も騒ぐことなくしっかりと皆さんの話をよく聞いてくれているということがあります。この瞬間を、晴れの日を楽しみたいという、そういう人たちの雰囲気にあふれていたのではないかなと思っており、いい式だったと思います。その後（式典終了後）の会場も、トラブルもなくということでありましたので、大変よかったですと思います。

メッセージとしては、川崎の歴史に少し触れて、あらゆる困難を克服してきた中には、やはり若者の力があつたということを紹介して、これからもいろんなことが時代的に起こるだろうけれども、そこを皆さんの力で未来を切り開いていっていただきたいという話と、それから、未来は作れるということと同時に、過去も変えられるという話をいたしました。これは去年も、私、言った話なんですけど、過去起こった事実も、見方によってはプラスに、悪い自分が嫌だなと思うような出来事だとか、そういったことも見方によってはプラスに転じることができるんだと、自分次第だという話をして、未来は作れるし、過去も変えられるしと。ですから、少なくとも私たちの今の時代よりも、皆さんの時代にさらにいい時代を作っていってほしいという激励の言葉をお伝えしました。

【幹事社】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

【司会】 よろしいですか。それでは、以上をもちまして市長会見を終了いたします。どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した

うえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355